

2019 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
人間健康学部 人間健康学科	准教授	山村 伸
最終学歴	学 位	専門分野
順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 博士前期課程 修了	スポーツ 健康科学 (修士)	スポーツ心理学 バスケットボール

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

前年度に引き続き、本学の見学の精神である「真に信頼して事を任せうる人格の育成」と校訓である「真面目」を念頭に、ひとりひとりと向き合いながら学生を教育する。現状に満足せず、何事にも準備を怠らない。

(計画)

授業面では履修学生とコミュニケーションを円滑にはかり、学生の意見や興味を持っている事柄に対して理解する。授業外では授業ノートやオフィスアワーを積極的に活用する。

○担当科目 (前期・後期)

(前期)

健康スポーツ心理学、スポーツ実習、保健体育教育法Ⅰ、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ

(後期)

メンタルトレーニング演習、専門スポーツ実習 (球技)、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ

○教育方法の実践

- ・保健体育科教育法Ⅰにおいて、模擬授業を行い、学生間での授業評価を実施した。
- ・メンタルトレーニング演習、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅰ・Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱにおいてグループワークを実施した。
- ・専門演習Ⅰにおいてフィールドワークを実施した。

○作成した教科書・教材

- ・メンタルトレーニング演習において集中力のトレーニング用具・課題解決学習の用具を作成した。

○自己評価

着任2年目となり、大学・学生の様子もある程度把握しながら教育活動を行えた。履修者が多い講義ではミニレポート等を介して学生の理解度等を把握するように努めた。基礎演習Ⅰ・Ⅱの担当となったが、関係各所と調整を重ね、円滑な運営が出来た。

II 研究活動

○研究課題

バスケットボールにおける勝利要因に関する研究
メンタルトレーニングに関する意識調査

○目標・計画

(目標)

調査内容を論文にまとめ本学紀要に投稿する。また、バスケットボールの内容については日本バスケットボール学会で発表する。

(計画)

前期期間：調査研究

後期期間：分析、学会発表、紀要投稿

○2012年4月から2020年3月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

- ・ 澁谷智久編著, 「新スポーツ科学概論-スポーツ・健康運動指導の必須知識-」, 創成社 (2019)
担当：142-144, 「精神障がい者スポーツの世界」

(学術論文)

- ・ 山村伸, 嶋原礼佳, 葛原憲治, 「NBA 2017-2018 シーズンにおける勝敗要因に関する研究」, 東邦学誌, 48(2), 51-70 (2019)
- ・ 山村伸, 「本学健康スポーツ専攻教員養成課程における保健体育科教育法体育分野の現状と課題」, 武蔵丘短期大学紀要, 25-1, 39-53, 2017
- ・ 山村伸, 太田あや子, 福島邦男, 「本学学生の体力水準と生活水準に関する調査—平成28年度健康栄養専攻女子学生を対象として—」, 武蔵丘短期大学紀要, 24, 37-39, 2016
- ・ 山村伸, 「教員免許状更新講習実践報告—実技科目バスケットボール—」, 武蔵丘短期大学紀要, 23, 87-91, 2015
- ・ 中村達也, 太田あや子, 福島邦男, 山村伸, 「本学学生の体力水準と評価方法に関する研究—平成27年度健康栄養専攻女子学生を対象として—」, 武蔵丘短期大学紀要, 23, 23-26, 2015
- ・ 太田あや子, 福島邦男, 玉木啓一, 河合一武, 桂和仁, 杉山仁志, 高橋琴美, 中村達也, 荒川崇, 山村伸, 佐藤亮輔, 鈴木宏, 佐久間淳, 田中忍, 高橋こずえ, 「平成25年度文部科学省スポーツを通じた地域コミュニティ活性化事業（大学・企業のスポーツ資源を活用した地域コミュニティ活性化事業）の取り組み」, 武蔵丘短期大学紀要, 22, 53-64, 2014
- ・ 荒川崇, 田中忍, 河合一武, 杉山仁志, 佐藤亮輔, 山村伸, 「武蔵丘短期大学強化指定部活動へのコンディショニングサポート活動報告」, 武蔵丘短期大学紀要, 21, 55-62, 2013
- ・ 山村伸, 「教員免許状更新講習実践報告—実技科目バスケットボール—」, 武蔵丘短期大学紀要 21, 51-53, 2013
- ・ 中村達也, 太田あや子, 福島邦男, 山村伸, 「本学学生の体力水準と評価方法に関する研究—平成25年度健康栄養専攻女子学生を対象として—」, 武蔵丘短期大学紀要, 21, 23-25, 2013
- ・ 山村伸, 荒川崇, 「高校生を対象としたバスケットボールクリニックの取り組み」, 武蔵丘短期大学紀要, 20, 85-87, 2012

(学会発表)

(特許)

(その他)

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

○所属学会

日本体育学会, 日本スポーツ心理学会

○自己評価

当初の予定通りには進まなかったが、著書では「新スポーツ科学概論（共著）担当：精神障がい者スポーツの世界」を執筆し、無事出版する事ができた。東邦学誌に「NBA2017-2018 シーズンにおける勝敗要因に関する研究」を投稿し、受理された。部活動指導、学生対応、各種委員会と折り合いをつけながら今後も継続的に投稿していきたい。

III 大学運営

○目標・計画

（目標）

中高教職課程委員会、教職支援センター運営委員会

- ・卒業後、教職を志す学生の増加

基礎演習 WG

- ・履修学生のスタディスキルの習得

女子バスケットボール部

- ・強化指定部への適切・円滑なシフトと部員数（次年度4名）の確保

（計画）

中高教職課程委員会、教職支援センター運営委員会

- ・正しい情報提供、学習環境の整備

基礎演習 WG

- ・演習の等質性を保つ為、担当教員への事前周知を徹底する。

女子バスケットボール部

- ・現部員への基本理念の周知、コミュニケーション（チーム課題について共に考える）。
大会視察、高校訪問。

○学内委員等

中高教職課程委員会委員、教職支援センター運営委員会委員、女子バスケットボール部顧問（監督）、入試問題作成委員会

○自己評価

中高教職課程委員会、教職支援センター運営委員会では、他の教職員と議論を重ね委員会の業務を遂行できた。自分が担当した介護等体験実習において幾つかの問題が生じたが、他の教職員と連携し対処できた。また、次年度へ向け再発防止の方策を決定する事ができた。

基礎演習 WG では関係各所と連携を取り、円滑に演習を進める事ができた。新任教員への説明が不十分な部分があったので改善したい。

女子バスケットボール部では徐々にではあるが、強化クラブとしての活動が出来ている。また、高校訪問・大会視察を積極的に行い、次年度入部予定者（6名）を確保する事ができた。

IV 社会貢献

○目標・計画

（目標）

スポーツ心理学、バスケットボールを基盤とした社会貢献の実施、地域ネットワークの構築

（計画）

出張講義 高等学校への出前授業、主に愛知県内の諸団体と交流する機会を持ち、どのようなニーズがあるかを調査し、どのような形式での貢献ができるか把握する。

○学会活動等

日本バスケットボール学会

○地域連携・社会貢献等

東邦学園高大連携授業（スポーツ心理学）

女子バスケットボール部、三河地域リーグ参加

東海学生バスケットボール連盟監督会議

○自己評価

大学からの提案があり、女子バスケットボール部の活動の一環として、オープンキャンパスの学生スタッフや大学周辺の地域清掃活動に参加した。今後も継続して活動したい。三河地域リーグでは試合は基より、学生主体での大会運営に貢献することができた。中体連等から大会会場として体育館使用のオファーがあったが、学内の団体・イベントが優先であるので、今回は実現しなかった。地域貢献・大学の認知度向上の観点からも可能な限りは対応したい。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

日本バスケットボール協会の発行する公認コーチ（C級）ライセンスの取得。

VI 総括

2年目は、年間スケジュールや大学・学生の様子が把握できたことにより、授業・委員会業務等、初年度よりはある程度余裕を持って遂行することが出来た。授業面では、学生の学習意欲・学力のバラツキが大きいことから、難し過ぎず、易し過ぎず内容の微調整は継続して行っていく必要がある。学生対応に関しては、欠席過多や退学になってしまう学生が一定数存在する現状がある。あまり1人で抱え込まずに他の教職員と連携を取り、多角的な対応をしたい。

女子バスケットボール部においては、着実に歩みを進めている。目先の事に囚われず、基本理念である「真面目・文武両道」、「愛され応援されるチーム」、「地域貢献」を念頭に活動して行きたい。

以 上